

2023 年春号

へそ按腹たより

へそ按腹普及会 日本事務局

春号



【ご挨拶】

今年は例年になく春の訪れが早く、既に陽気が上がり暖かくなっています。花粉が多い上にさらに黄砂が混じり、喘息のような症状を呈する患者さんが多数来院されています。このような時にはまず肋骨に沿って按腹するのが基本です。肋骨の按腹は骨自体をさす必要があります。肋骨の骨にこびりついたように邪が乗っています。それを丁寧に按腹してください。

近年の医療を見ていると、コロナの対応にしても、がん治療にしても、行き詰まりに來ていると感じます。一人一人に合った医療が必要です。新しい医療を形作る目的で医療者達が集い、薬を使わない医療を学んでいます。それは食・心(脳)・そして身体からのアプローチとして按腹や波動治療などを取り入れた内容です。按腹は手技治療の要となります。

現代社会は利益追求型のストレス社会です。時間に追われ、実績に追われる競争社会。その上にウィルスや花粉、黄砂といった外敵にさらされています。ストレスをいかに乗り切って元気に長生きするか？自律神経とホルモンの中枢、視床下部を活性化させて、身体のバランスを保つことが重要です。按腹は視床下部を活性化させると脳外科のドクターが仰っています。按腹は自分自身の身体と家族の健康を守るための力となります。

多くの人にお役立ていただきたく、ホームセラピスト認定講座を定期的に開催し、手軽な按腹技術を伝授いたします。

親子で来院されています。

10 年ほど前には腰痛の治療でお母さんが通って来られていました。

今回は娘さん。手足の痺れがひどく歩くのも苦痛だと、足を引き釣りながら来院されました。聞けば痺れは 3 年以上続いているそうです。1 回の治療で痺れと痛みをほとんど感じなくなりました。

お母さんの腰痛はあれ以来すっかり良くなり、再発はないそうです。

がんの解明がすすんでいます。

乳がん A さん；余命宣告されていた方。腫瘍マーカーが正常値になりました。

乳がん B さん；体温が 2℃近く上昇し、寒さを感じなくなっています。腫瘍も縮小しました。

乳がん C さん；検査結果、どの抗がん剤も効果がないと医者から宣言されたのに、抗がん剤を処方されました。腫瘍マーカーは上がる一方。1 か月の按腹治療で値の増加が穏やかになりました。体調も改善し、手術痕の胸のこわばりと痛みが軽減しました。

肝臓に転移したがん；半年で 6cm→1.5 cm に縮小。

60 代の子宮がん；数センチの腫瘍がとりあえず消えています。強烈な倦怠感からは解放されました。

悪性リンパ腫再発の方；強い抗がん剤の投与を勧められましたが、按腹を優先しました。お腹は板のように硬かったです。数か月後の再検査の結果、腫瘍マーカーは正常値まで下がっていました。

お腹に出るがん特有の強烈なスジが残っている場合、油断はできません。がんの反応帯は高い確率で大転子の前に出るようです。

今後の予定

ホームセラピスト認定講座開催

日時：5 月 5 日(金)こどもの日

10:00~17:00

費用：30,000 円

認定講座受講後は随時フォローアップを行います。

詳しくは治療院までお問合せください。

YouTube 動画へのリクエストをお寄せください。

YouTube 会員を募集しております。

YouTube 会員についてのお問い合わせ

【へそ按腹普及会 (すぎやま按腹鍼灸院内)】

電話：03-6206-2666

メール：heso.ampuku.hukyukai@gmail.com